2017 年 8 月

ピュリッツァー賞カメラマンが戦場で見つめた悲しみと希望。写真・遺品合わせて約 180 点を公開。

写真家 沢田教一展

―その視線の先に

行軍する米兵にカメラを向ける沢田　撮影年月不明

■2017 年 8 月 16 日（水）～8 月 28 日（月）

■日本橋髙島屋 8 階ホール

■主　催；朝日新聞社
■入場料；一般 800 円、大学・高校生 600 円、
中学生以下無料
※ご入場時間；午前 10 時 30 分～午後 7 時（午後 7 時 30 分閉場）
最終日は午後 5 時 30 分まで（午後 6 時閉場）

ベトナム戦争の報道写真で活躍し、母子が戦火を逃れて川を渡る様子をとらえた『安全への逃避』でピュリッツァー賞を受賞した写真家・沢田教一の回顧展を開催します。

≪ベトナム戦争で世界に名をとどろかせたカメラマン≫　POINT：1

青森県に生まれた沢田は、1965 年からベトナム戦争を取材。主に米軍の作戦に同行し、最前線での激しい戦いや兵士の表情などを数多く写真に収めます。1970 年、カンボジアでの取材中に銃殺されるまでのわずか 5 年という本格的なキャリアの中で、ピュリッツァー賞のほか世界報道写真コンテスト 2 年連続大賞、US カメラ賞、ロバート・キャパ賞（死後受賞）などの輝かしい実績を残しました。米軍の重要作戦をカバーし続け、1968 年の「フエの攻防」では、ベトナムの古都で繰り広げられる激しい市街戦の模様を世界に伝えました。

本展では妻・サタさんの全面協力のもと、こうした戦場カメラマンとしての業績とともに、故郷・青森を写した作品や東南アジアの人々を切り取った姿など、写真作品約 150 点を紹介。カメラやヘルメットなどの遺品や愛用品も約 30 点展示します。

≪写真家としてのサワダ…視線の先に見ていたもの≫　POINT：2

沢田の写真に通底するのは、優しい眼差しです。疲れ果てた名もなき米兵、家を追われたベトナムの市民、故郷・青森の貧しい漁民――彼らがすがるかすかな希望や、懸命に日々を生きる姿にカメラを向けました。

沢田は、「そこに生きる人々を撮りたいんだ」と語り、戦争カメラマンと呼ばれるのを嫌っていたといいます。ベトナムでの大活躍の先に見ていた未来とは…。サタさんをはじめ関係者の証言を紡ぎながら、34 歳で殉職した「写真家」の業績をたどります。

【お問い合わせ】日本橋髙島屋　℡　03－3211－4111（代表）

沢田教一　略歴

1936（昭和 11）年 2 月 22 日　青森県青森市寺町に、郵便局員の長男として生まれる

1950（昭和 25）年　青森県立青森高等高校に入学。同級生に寺山修司

1955（昭和 30）年　浪人生活ののち帰郷。写真家・小島一郎が経営する写真店に勤め、その後、米軍三沢基地の小島写真店で働く

1956（昭和 31）年 6 月　小島写真店の同僚、田沢サタと結婚。結婚生活ではサタをモデルに、撮影旅行で腕を磨く

1961（昭和 36）年　夫妻で上京。12 月に UPI 通信社東京支局に就職

1962（昭和 37）年 11 月　皇太子（現在の天皇陛下）夫妻のフィリピン訪問に同行取材

1964（昭和 39）年　東京オリンピック取材

1965（昭和 40）年 2 月　1 カ月の休暇を取り、自費でベトナム取材を開始。地方新聞社で組織する「火曜会」特派員として記事を配信する

3 月　アメリカが北ベトナムへの爆撃（北爆）を開始。米軍の介入でベトナム戦争は全土に拡大。ＵＰＩは沢田の個人的な取材活動を追認し、滞在が 1 カ月延長される

7 月　念願だったＵＰＩサイゴン支局へカメラマンとして正式に赴任。

9 月 6 日　クイニョン近郊の作戦に従軍。ロクチュアン村で川を泳いで逃げる家族の写真を撮影。「安全への逃避」とタイトルされて世界中に配信される。以降、プレイメ、プレイク、イアンドラン渓谷など最前線での撮影を重ねる

12 月　「安全への逃避」で第 9 回世界報道写真展大賞および報道部門第 1 位を獲得。

1966（昭和 41）年 1 月　妻サタを伴って再びサイゴンへ。米兵 2 人が塹壕から引きずり出したベトコン兵士を連行する写真「敵を連れて」をボンソンで（1 月 29 日）、米軍装甲兵員輸送車が死体を引きずる写真「泥まみれの死」をタンビンで（2 月 21 日）撮影する

4 月　「安全への逃避」が 1966 年度米海外記者クラブ賞を受賞

5 月　「安全への逃避」を含む 28 点の一連の写真で、日本人としては 2 人目となるピュリツアー賞（報道写真部門）を受賞。8 日にニューヨークでの受賞式に参加

12 月　第 10 回世界報道写真展で「泥まみれの死」が第 1 位、「敵を連れて」が第 2 位を獲得。ハーグでの受賞式には妻サタが代理出席。ベトナムへ派遣された米軍の総数は 50 万人に達する

1968（昭和 43）年 2 月　ベトコンなど解放勢力が南ベトナム各地で一斉蜂起（テト攻勢）。中部ベトナムの要衝フエの攻防戦を取材。王城の攻防戦をとらえた一連の写真が第 26 回 US カメラ賞を受賞する

3 月　ジョンソン米大統領が次期大統領選への不出馬と北爆縮小を表明

9 月　UPI 香港支局写真部長へ転出、ベトナムを去る

1970（昭和 45）年 1 月　再びサイゴン支局に赴任

5 月　米軍と南ベトナム軍がカンボジア侵攻を開始。カンボジア取材中に反政府ゲリラのクメール・ルージュに一時拘束されたが、無事帰還

10 月 28 日　プノンペンの南約 34 キロ、ネアクルンの国道 2 号線でＵＰＩプノンペン支局長フランク・フロッシュとともに銃撃され死亡。34 歳。死後、勲六等単光旭日賞、青森県褒賞が贈られる